

<p>事例 その他の収入源の確保</p> <p style="text-align: center;">同窓会との連携</p> <p style="text-align: right;">～小樽商科大学～</p>	<p>本事例の中心人物</p> <p>理事 総務課長</p>
---	------------------------------------

事例内容

【概要】

小樽商科大学では、同窓会組織（社団法人緑丘会）と密接に連携して、協力関係を築きながら支援を受けている。

開学 80 周年記念事業では、緑丘会が 5 億円の寄付を集め、これを元に毎年約 2,000 万円の寄付を行っている。また、実業界で活躍している人材が、同窓会から講師として派遣されるオムニバス形式の授業（緑丘会をもじって「エバーグリーン講座」と呼ばれる）の実施や、学生の就職活動に必要な旅費の貸与等、様々な方面での支援がなされている。

【背景】

同窓会の歴史は古く、明治 45 年に設立されて以来、大学に対する積極的な支援がなされている。卒業生（同窓会）と大学の密接な協力関係には、特徴的な「ゼミ」によるところが大きい。小樽商科大学のゼミでは、2 年間同じメンバーが各ゼミ専用の教室で授業を受けるため、学生同士の結束に加え、学生と教員との結束も非常に強くなるなど、将来的な同窓意識に繋がっている。

【取り組み内容】

80 周年の記念事業で寄付されたものについては、国際交流プロジェクトで受け入れた留学生への奨学金として活用。寄付金の使い道は緑丘会ともよく相談して決定している。

また、お互いの連携を深めるための方策として、学生向けの企業セミナーを大学と緑丘会の共催で開催するというような取り組みもなされている。

最近では、緑丘会の組織率の低下が問題となっているため、大学としても組織率を向上するため協力態勢を整えた。緑丘会からの支援については、成績優秀者に対する奨学金を緑丘会の寄付金から支出するなど、学生が緑丘会のメリットを実感できる形をとることを意識している。また、在学生を賛助会員と位置付け、緑丘会に代わり大学が会費を徴収するなど、財政上の協力も行っている。

【結果】

エバーグリーン講座は、学生から大変な好評を得ており、教室に入りきれないほどの受講希望者が出るなど、緑丘会と大学の連携は学生にとっても非常に有益な結果となっている。

緑丘会と大学は経済的な支援だけでなく、共に大学を支えるという意識で連携しているため、新しい取り組みを行う際に、人的あるいは財政的に協力し合うという風土が生まれている。

成功のポイント

伝統と小規模校ならではの同窓会との密接な連携

明治 44 年設立の小樽高等商業学校を母体に、昭和 24 年の学制改革で発足した長い伝統を持ち、設立以来、実学重視、少人数教育という独自路線を採ってきた。小規模という特色を生かし、少人数で 2 年間学ぶゼミに代表されるように、学生同士の結束と教職員間の関係を密にし、更にそれは卒業生、同窓会にも及んでいる。大学としても同窓会とは、人材（理事には同窓会常務理事にも就任してもらい、大学職員との打合せも密に行ってい

るとのこと)、資金面でも密接な連携をとっている。

国立大学の国立大学法人化

もともと進取の気性に富んだ学風で、小規模で学内合意も得やすく、新しいことにいち早く取り組める。そして、まずは実行して実績を作りその上で国に予算をつけてもらう。このような方法をとってきた中で、国立大学法人化により以前より柔軟な独自予算編成が可能になったことが、予算削減という厳しい状況下ではあるが、学内の各種事業、同窓会との連携にも追い風になった。

さらなる連携へ新たな試み

従前の仕組みだけに頼らず、同窓会から講師が派遣されるオムニバス形式の授業を「エバーグリーン講座」と冠して、在学生に同窓会組織である緑丘会の存在をPRしたり、同窓会と共同で「緑丘企業等セミナー」を開催し、約200企業等から参加費1社につき3万円、合計約600万円を徴収して、学生の就職支援事業に充てたり、既存の卒業生からの寄付金だけに頼らず、様々な面での新規連携の試みを実践している。

委員の所感

同窓会は大学の大きな応援団

同窓会は、寄付金という単純に目に見えるものから、人材という一見して目に見えにくいものまで、身近で大学を大きく支えてくれる偉大なる応援団である。同窓会との連携は、大学の運営に欠かすことのできないものである。

規模の大小でいえば、大規模校の方が規模の論理で有利な面も多いのも事実だが、小規模校ならではのきめ細かな、密な、暖かさを感じさせる同窓会との連携は、様々な先人に支えられる学校という学びの場の原点を垣間見た感じがする。

その上で、小規模校の特性による既存の関係に安寧せず、現在においてもより密接に連携を図ろうとする各種試みは、大いに評価に値すると感じた。

今後の課題

同窓会の組織率の低下問題の改善

最近、同窓会の組織率の低下が問題となっている。大学としても組織率の向上のために協力態勢を整え始めている。具体的には、就職支援事業の一環として、緑丘会賛助会員学生を対象にした緑丘会「就職活動支援融資」(一人10万円まで)を発足させ、学生を支えている同窓会組織としての緑丘会の存在をPRするなど、学生が同窓会のメリットを実感できるよう意識している。